

# 音楽科学習指導案

東広島市立八本松中学校 教諭 山口 香織

1 日 時 平成25年11月15日

2 学 年 第2学年1組34名

3 場 所 音楽室

4 題材名 「箏の音色を楽しもう～表現を工夫して演奏し、楽調子の特徴を生かした旋律をつくろう～」

5 題材設定の理由

- 本題材は、中学校学習指導要領音楽（平成20年）の第2学年及び第3学年「A表現」（2）の指導事項ア「曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること。」及びイ「楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。」、（3）の指導事項ア「言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくること。」を受けて設定した。また、〔共通事項〕のうち、音色、強弱、旋律、速度、構成（変化）などを扱う。

中学校学習指導要領（平成20年）の音楽では、和楽器についてその指導をさらに充実するため、中学校第1学年から第3学年までの間に1種類以上の和楽器を扱い、表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫することを示している。そこで、本題材では、和楽器である箏を用いて、表現（器楽）と創作の関連を図った学習指導を行っていく。基礎的な奏法を身に付けながら、曲にふさわしい表現を工夫して演奏する能力と楽調子の特徴を理解して旋律を創作する能力を育成するとともに、音楽を聴いて我が国の伝統音楽のよさを味わうことをねらいとしている。

- 第1学年では、ゲストティーチャーの演奏による箏曲を鑑賞した。箏についての基礎的な知識について学習し、平調子「さくらさくら」の演奏と平調子の特徴を生かした旋律（8小節）の創作を行った。箏の奏法については、押し手・合わせ爪・弱押し・ピッチカート奏法を学習し、「さくらさくら」を二部合奏した。基礎的な奏法を身に付けることのみを目標とせず、所作についても学習し、それらが影響し合っ箏の音色、我が国の伝統音楽のよさや美しさにつながっていると感じ取らせた。創作については、開始音や音のつなげ方やリズムを反復させる等の手立てを示し、平調子の旋律を創作した。

生徒は、箏の演奏についての関心も高く、所作を意識して演奏することができつつあるが、音色や音楽表現を工夫した音楽表現までに至っていない。また、創作については、生徒全員が手立てをもとに旋律を創作することができていたが、自己のイメージや音楽を形づくっている要素とかかわらせながら旋律を創作するまでには至っていない状況にある。

- 指導に当たっては、次の2点について工夫する。

1点目は、本題材で取り扱う楽調子や「スクイ爪」「強押し」を、第1学年時に学習した平調子や「親指による奏法」「弱押し」と比較して聴取し、調子の特徴と奏法による音色の変化を捉える学習活動を取り入れる点である。これらの比較聴取を行うことで、曲想と音色や旋律の特徴を捉えやすくなるを考える。

2点目は、創作活動において、器楽と創作を関連付けた題材の構成を工夫することである。旋律をつくる際に、器楽で箏曲「浜辺の歌」を学習した際の要素に関する気付きを手掛かりとして、自己のイメージについて要素とのかかわりが捉えやすくなるを考える。

6 題材の目標

○楽調子の特徴や奏法による音色の変化を理解するとともに、箏曲「浜辺の歌」の曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏することができる。

○楽調子の特徴を生かし、音楽を形づくっている要素とかかわらせながら旋律を創作することができる。

7 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<p>① 曲想に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 【器楽 指導事項ア】</p> <p>② 箏の奏法に関心をもち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 【器楽 指導事項イ】</p> <p>③ 楽調子の特徴や音階の構成音によって生み出される独特な雰囲気に関心をもち、音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。 【創作 指導事項ア】</p>	<p>① 楽調子の特徴や箏の音色、奏法による旋律、強弱や速度の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 【器楽・創作に共通】</p> <p>② 知覚・感受しながら、曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 【器楽 指導事項ア】</p> <p>③ 知覚・感受しながら、箏の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 【器楽 指導事項イ】</p> <p>④ 知覚・感受しながら、楽調子の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 【創作 指導事項ア】</p>	<p>① 曲想を生かし、曲にふさわしい音楽表現をしたり、基礎的な奏法を生かした音楽表現をしたりするために必要な箏の奏法や姿勢などの技能を身に付けている。 【器楽 指導事項ア・イ】</p> <p>② 楽調子の特徴を生かした音楽表現をするために必要な、課題に沿った音の組み合わせ方などの技能を身に付けて旋律をつくっている。 【創作 指導事項ア】</p>

8 指導と評価の計画 (全8時間)

次	時間	学習活動	評価規準	評価方法
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1年時の学習を振り返り、「さくらさくら」を演奏する。</li> <li>○ 「さくらさくら (スクイ爪)」の演奏を聴き、奏法による音色の変化による曲想について、気付きをまとめる。</li> <li>○ 「スクイ爪」の奏法について理解し、「さくらさくら (スクイ爪)」を演奏する。</li> </ul>	<p>関② 箏の奏法に関心をもち、それらを生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>行動観察 ワークシート</p>
	2 (本時2/2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平調子と楽調子を比較聴取し、楽調子の特徴を捉える。</li> <li>○ 楽調子の「浜辺の歌」の模範演奏を聴く。</li> <li>○ 「強押し」の奏法を身に付け、「浜辺の歌 (前半部分)」を演奏する。</li> <li>○ 「弱押し」の奏法を身に付け、「浜辺の歌 (中間部分)」を演奏する。</li> <li>○ 「浜辺の歌」を通して演奏する。</li> </ul>	<p>創① 楽調子の特徴や箏の音色、奏法による旋律、強弱や速度の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。</p> <p>創③ 知覚・感受しながら、箏の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かした音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>行動観察 ワークシート</p> <p>行動観察 ワークシート</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「浜辺の歌」の歌詞を朗読し、歌詞の情景をイメージさせる。</li> <li>○ 「浜辺の歌」の模範演奏を聴き、曲想を味わう。</li> <li>○ 曲にふさわしい表現を工夫する。</li> <li>○ 「浜辺の歌」を演奏する。</li> </ul>	<p>関① 曲想に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>創② 知覚・感受しながら、曲想を味わって曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</p> <p>技① 曲想を生かし、曲にふさわしい音楽表現をしたり、基礎的な奏法を生かした音楽表現をしたりするために必要な箏の奏法や姿勢などの技能を身に付けている。</p>	<p>行動観察 ワークシート</p> <p>実技テスト</p>
第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「さくらさくら変奏曲」を鑑賞し、変奏曲について理解する。</li> <li>○ 「浜辺の歌」の前半部分 (8小節) を基に、旋律をつくる。</li> <li>○ 自己のイメージに合うようにリズムや音色、奏法を変化させる等、音楽を形づくっている要素をいろいろと試しながら旋律をつくる。</li> </ul>	<p>関③ 楽調子の特徴や音階の構成音によって生み出される独特な雰囲気に関心をもち、音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>創④ 知覚・感受しながら、楽調子の特徴を生かした音楽表現を工夫し、どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>行動観察</p> <p>行動観察 ワークシート</p>
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペアで互いの作品についてアドバイスし、演奏ながら作品を仕上げる。</li> <li>○ 自分の作品を発表する。</li> </ul>	<p>技② 楽調子の特徴や楽調子の特徴を生かした音楽表現をするために必要な、課題に沿った音の組み合わせ方などの技能を身に付けて旋律をつくっている。</p>	<p>発表会での演奏</p>

9 本時の展開

【第一次】3時間目

- (1) 本時の目標：「強押し」「弱押し」の奏法を生かし、「浜辺の歌」の演奏を工夫することができる。
- (2) 観点別評価規準：
- (3) 準備物：パソコン，プロジェクタ，箏
- (4) 学習の展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項 ( ○ ) (□ ICTを活用した指導の工夫) (◇「特別な支援を必要とする生徒」, ◆「努力を要する状況」と判断した生徒への指導の手立て)	評 価 規 準 (評価方法)
1 前時までの学習を振り返る。 前半部分を演奏する。 (7分)	□授業で学習したことを質問しながら確認する。 「強押し」の奏法を確認する。 ・左手, 手首の形, 押さえ方 ・前半部分を演奏	
2 本時の目標を知る。(1分)	「浜辺の歌」を演奏しよう。(「強押し」「弱押し」の奏法を身に付ける)	
3 中間部の模範演奏を聴く。 (3分)	○ゲストティーチャーの模範演奏を聴かせる。 ○ゲストティーチャーの奏法に注目させる。	
4 「弱押し」の奏法を練習する。  5 中間部(「弱押し」)をどのように演奏するかについてワークシートに記入し, 発表する。 (10分)	○「弱押し」の部分を確認する。 ○ゲストティーチャーに奏法について説明していただく。 ・左手の添え方, 音色, 半音の音程を意識させる。 ・ペアで奏法や楽譜を確認しながら, 練習をさせる。 ・演奏していない生徒は, ペアの生徒にアドバイスをすることを伝える。 ◆個別指導を行い, 奏法の習得を支援する。  ○「弱押し」のポイントや中間部での演奏についての音楽表現を考えさせる。 ◇手立てカードを提示し, 自分の考えを記入させる。  ○自分の考えと比較しながら発表を聞かせる。	創③ 知覚・感受しながら, 箏の特徴を理解し, 基礎的な奏法を生かした音楽表現を工夫し, どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 (行動観察) (ワークシート)
6 ワークシートに記入したことを基に練習する。	◆個別指導を行い, 奏法の習得を支援する。	
7 まとめの演奏をする。(5分)	○所作, 「強押し」「弱押し」の左手の添え方, 音色を意識させて演奏させる。	
8 本時のまとめをする。(5分)	○授業を振り返り, 本時の気づきをまとめる。	生徒のまとめ例 ・「弱押し」では, 音色を注意深く聴きくことで半音をきれいに演奏することができた。等, 奏法や音色の変化を具体的に挙げて記述している。